

リベラルアーツの種をまく「Book: The Gathering」

ビブリオシアター 副統括責任者 篠原圭介

1 はじめに

文理融合・領域横断的な独自の図書分類「近大INDEX」によってタイトリング・選書された図書空間「ビブリオシアター」。リベラルアーツの殿堂と銘打たれたこの施設には、学生や研究者が新たな発想・発見に出会うための様々な工夫が施されており、非常に大きなポテンシャルを秘めています。しかしながら、利用者の皆さんは十分にその恩恵にあずかっているのでしょうか。また、私たちビブリオシアターのスタッフは、十分にそれを活かすことができているのでしょうか。

日々、利用者の皆さんと接する中での実感としては、近大INDEXというもの（言葉そのものではなく、十進分類法とは異なる独自分類にもとづいているということ）を意識している近大生はごく少数だと言わざるを得ません。ましてや、ビブリオシアターから能動的にリベラルアーツを得ようとする学生となると、さらに希少です。当館が素晴らしい施設であるだけに、これはたいへん残念な現状です。

かといって学生に対し、ビブリオシアターやリベラルアーツの理念を説くだけでは、効果的とは思えません。人はしばしば「やらされている」と感じることに拒絶を示すものだからです。可能ならば、意識せずとも少しずつ、自然にリベラルアーツを身につけてもらいたい。そのような考えをもとに始まったのが、「Book: The Gathering」（ブック・ザ・ギャザリング）です。

2 新プロジェクト「Book: The Gathering」

Book: The Gathering（以下BTG）の全体構造は複雑であり、端的に説明するのは難しい

のですが、あえて一言で表現するならば「本のトレカを集めるゲーム」です。

本にまつわる謎を解くことで獲得できるトレカのコレクションを目的として、ゲーム感覚で読書を進めるうちに、新しい興味分野との出会い、読書技法の習得、そして読書の楽しさと知的興奮を味わうことができるようデザインされています。

2.1 本のトレカ



図1：トレカの例（『世界秘儀秘教事典』）

BTGでは、課題本それぞれに「クエスト」を設定しており、それを達成することで課題本の要素を盛り込んだトレカを入手することができます。図1はその一例、エルヴェ・マソン著『世界秘儀秘教事典』のトレカです。

トレカには書名、著者名、出版社、出版年、NDCなどの一般的な書誌情報はもとより、近大INDEXにおける棚タイトル、小見出しなどのビブリオシアター独自の情報も盛り込まれています。ここには、いまだ近大生にもなじみの薄い近大INDEXに、トレカを通じて親しんでもらおうという狙いがあります。

さて、トレカ獲得までの流れは以下のとおりです。

- ①対象クエストのQRコードを読み取る
- ②表示されたクエストを解く
- ③達成画面を提示してトレカを獲得

次節ではBTGのメインコンテンツである、クエストについて解説します。

2.2 目次読みという読書技法

BTGのクエストは課題本を読むことで解くことができます。といっても、その本を最初から最後まで通読する必要はありません。BTGでは「目次読み」を基本としており、目次や索引などから、自分が必要とする情報がその本のどこに書かれているのかを予測することで、短時間の読書で目的が達成できるよう設計されています。これをメインとしたものを捜読系クエストと呼んでおり、BTGのクエスト全体の半数以上に相当します。

例として捜読系クエストをひとつ挙げてみましょう。お時間に余裕のある方は、QRコードからぜひ実際に挑戦してみてください。

クエスト No. 279『動物に愛はあるか(1)』

この本は、動物が人間と同様の感情を持っているか、実例に沿いながら見ていくものである。

1975年12月の新聞で25歳のサーカスの象が、舞台上自分の相手役をしていた女性が調教師と結婚したことに抗議をして〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇をして亡くなった、と報道された。

空欄に当てはまる語は何か。



※ QRコードを読み取ると、BTGポータルサイトからクエストにアクセスできます。

この設問に答えるために、まずは課題本であるモーリス・バートン著『動物に愛はあるか(1)』を手取る必要があります。冒頭でも述べたとおり、ビブリオシアターは「近大INDEX」という特異な分類によって配置されており、慣れていない者にとっては1冊の本を探し出すのも困難といえます。もちろん通常の利用者と同様、本の検索はスタッフの補助を受けることができますが、この「目的の本にたどり着く」過程もBTGの目的のひとつである近大INDEXの理解につながっています。ちなみにこの本の所在はDONDEN31(02-C)。棚タイトルは「動物の王国へようこそ」です。

さて、無事に本を手にしたなら、まずは目次を確認します。

『動物に愛はあるか(1)』目次

はじめに

- 1 高次行動
- 2 動物の作法
- 3 救いを求める叫び
- 4 命を救うイルカ
- 5 思いやりの情をもつゾウ
- 6 墓と墓地
- 7 悲しみ
- 8 忠犬物語
- 9 盲導
- 10 思いやりのメカニズム

いかがでしょうか。この本の中で、サーカスの象の死について書かれているのがどこか、すぐにわかりますか？ 結論から言えば、間違いなくここに書いてあるだろう、というような章タイトルは見つかりません。したがって、該当しそうな箇所いくつかあたりをつけて読んでいくことになります。候補としては「高次行動」「思いやりの情をもつゾウ」「悲しみ」などが挙げられるでしょうか。

これらに目を通しながら、ゾウの死の記述を探していくわけですが、対象を3つの章に絞ったとはいえ、それらすべてを熟読する必要はありません。パラパラと流し読みしながら、気になった箇所を見つけたときだけじっ

くり読む。これを繰り返すことで、効率的に情報を探すことができます。

以上が目次読みという、BTGが推奨する読書技法のひとつであり、論文作成時の情報収集等、様々な場面で活躍する、すべての学生にぜひ習得してもらいたいスキルです。このクエスト種の主たる目的は目次読みの習得ですが、同じくらい重要な効果として興味・関心分野の拡張と能動的な読書体験があります。クエストの答えを求めて流し読みをする中でも、興味を引く記述に出会うことは少なくありません。つい、クエストとは関係のない部分を読み耽ってしまうのです。こうした体験が、新たな分野へ興味を広げ、普段読書をしていない学生の「読書のハードル」を下げることにつながる——すなわちリベラルアーツの種をまくことになると考えています。

2.3 各種のリベラルアーツ体験

BTGのクエストは全281種(2024年8月現在)あり、捜読系のほかにも調査系、謎解き系、読書系などの多様なクエストを用意しています。それらに挑戦する過程で、文献・データベース検索能力、発想力、論理的思考力、読解力など、目次読みスキルのほかにも多様な能力を培うことができます。

特に上級クエストと呼ばれる、特定の条件を経て挑戦可能となる特殊課題は「オリジナルのクエストを作成する」「自分の推薦図書にキャッチコピーと推薦文をつける」「自ら選書した3冊読みを提案する」等々、より高度なリベラルアーツ体験が期待できる内容となっています。クエスト作成課題を例に挙げると、①本を選び、②概略をつかみ、③エッセンスを抽出し、④解答者を想定して設問文を作成する、といった具合です。他ではなかなか得られないアクティブな読書体験であり、作成者の中に知識・興味が根付くという意味でもきわめて効果的だと考えています。

実は前節にて例示したクエスト『動物に愛はあるか(1)』も学生による作品です。ハンドルネーム「ぐーのかに」さん(文芸学部)が

Cトピア認定クエストにて制作してくださいました。よく練られた良問であったため、本稿にて紹介させていただいた次第です。

2.4 交流の場としてのビブリオシアター

ビブリオシアターは中央図書館とは異なり、会話・ディスカッションが許容された空間です。友人と協力してクエストに取り組んだり、達成数を競い合ったりと、BTGを通じたコミュニケーションがここで見られます。

また、BTGはビブリオシアターに常設されており、興味を持った学生がいつでも遊ぶことができますが、それとは別に様々なイベントも開催しています。2023年度の実施例としては、BTGで集めたトレカを駆使して競い合うゲーム大会、インストラクターとともにクエスト作成に挑戦するワークショップ、制限時間内のクエスト達成数を競う学生主催企画などがあります。図2は第1回ゲーム大会のあと、初対面の参加者同士が協力して未解決クエストに挑んでいる様子です。イベントを通じて近大生の輪が広がることを目指すことができ、開催者としても感慨無量でした。



図2：大会後、協力してクエストに挑む学生

2.5 2023年度の成果

BTGの2023年度の参加者数を表1に、その推移を図3に示します。参加者数は441名、のべ2,717名(オープンキャンパスおよび図書

	実人数	のべ人数
2023年度参加者数	441	2,717

表1：2023年度のBTG参加者数

館総合展の参加者 353名を除く)。これはつまり、BTG によつてのべ 2,717 冊の本が読まれたということでもあります。当館の企画としては過去に例のないほど、多くの方に参加していただく結果となりました。

図 3 をみると 6 月の開始直後のほかに 10 月以降にも大幅なべ人数の増加が確認できますが、こちらは新規クエスト追加の影響と思われる。BTG のクエスト数は 2023 年 6 月の開始時点では 112 種でしたが、同 10 月には 205 種、2024 年 4 月には 281 種類と、徐々にその数を増やしており、常にラインアップに変化をつけることで、新規参加者だけでなくベビユーザにも飽きずに楽しんでもらえるよう企図しています。

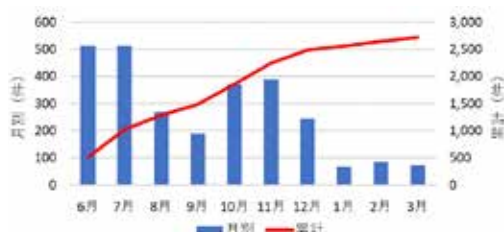


図 3：月毎のクエスト達成件数 (のべ人数)

次に示すのは、前年度 (2022 年度) の貸出冊数による参加者の内訳です。

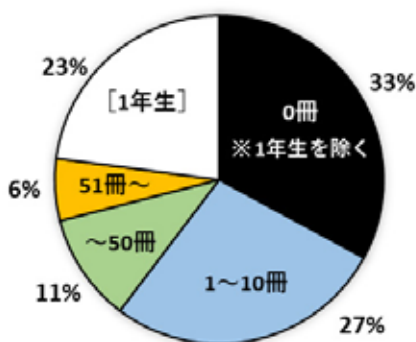


図 4：前年度貸出冊数による参加者内訳

これを見ると前年度に図書館で本を借りていなかった人が、BTG 参加者の半数以上を占めることがわかります。つまり、もともとビブリオシアターをよく利用していた学生層

が BTG にも参加してくれているというよりも、BTG をきっかけに来館してくれるようになった学生が相当数いるということです。ビブリオシアターや近大 INDEX の認知度向上という目的に貢献しつつあるといえるでしょう。

また、アンケートには参加者から様々な声が寄せられましたが、最も多い意見として「普段読まないジャンルの本だが興味深かった」「普段は本を読まないが楽しく読めた」といったものがあり、学生の興味・関心分野の拡張という点でも手ごたえを感じました。

3 課題と新しい取り組み

BTG にはいくつかの課題がありますが、そのひとつはアクセシビリティです。一度体験した方からは好評をいただくことが多いのですが、未体験の方には面白さ (あるいは有用さ) が伝わりにくく、「とりあえずやってみよう」と思ってもらうにはハードルが高いようです。対策としてチュートリアル用のクエストを館内各所に展開するなど、様々な方法を検討・試験中です。

次にユーザビリティの問題です。2023 年度の BTG では Google ドライブ上にアップロードした PDF ファイルと、そのパスワード機能を利用していました。そのためクエストの解答が半角英数表記に限定されること、画面表示が端末によって異なる場合があること、レスポンスがやや遅いことなどが課題となっていました。これらを解決するために BTG 専用の WEB サイトを作成し、2024 年度からはそちらへプラットフォームを移しました。多くのユーザーから、格段に遊びやすくなったとの声をいただいています。

その他にも様々な工夫を加え、より多くの学生・教職員の皆さまにお楽しみいただけるよう、BTG はこれからますますアップグレードしていく見込みです。未体験の方はぜひ一度お試しください。

また、BTG のほかにも、ビブリオシアターを活用した企画は常時検討中です。2024 年 4 月からは新たに NOAH33 スタンプラリーを開

始しました。こちらは本を借りるたびに近大 INDEX に応じたスタンプを押せるという読書推進の取り組みです。



図 5：NOAH33 スタンプラリーカード

4 おわりに

リベラルアーツは一日にしてなるものではありませんが、すべての方にとって、ピブリオシアターはその端緒となりえます。創意と工夫を凝らしてお待ちしておりますので、いつでもお越しくださいませ。

参考資料

エルヴェ・マソン著 蔵持不三也訳（2006）『世界秘儀秘教事典』原書房

モーリス・バートン著 垂水雄二訳（2006）『動物に愛はあるか1』早川書房

Book: The Gathering

<https://sites.google.com/itp.kindai.ac.jp/book-the-gathering/home>

（閲覧日 2024-07-31）